

プラットフォーム

# 開発環境から運用までのクラウドソリューションを ワンストップで提供する「BizXaaS PaaS」

共同利用型プラットフォームである「BizXaaS PaaS」は、開発環境から運用まで、アプリケーションSIをワンストップでサポートするサービスである。本稿では、「SI as a Service」とも呼ばれる本サービスについて紹介する。

## 共同利用型プラットフォーム BizXaaS PaaS

現在、多くの企業では、様々なアプリケーションが業務や部門毎に分散している。これに対し、各企業ではシステム投資の最適化を目的として乱立するシステムを集約しようとする動きが出てきており、その共通基盤としてクラウドを活用するというニーズが活発化している。NTTデータは、クラウド上で様々なシステムを統合し中長期的にTCOを最適化するために他のシステムやアプリケーションとの「連携性」と低コストでカスタマイズを実現できる「柔軟性」が重要であると考えている。

## BizXaaS PaaSが提供する「連携性」

NTTデータのBizXaaS PaaSは、システム共通基盤を構築するうえで中核となるWebシステム構築基盤としてSOA/BPMアーキテクチャをベースとしたintra-mart WebPlatformを採用しており、その周囲に、メール、グループウェア、文書管理、などの業務アプリも用意している（図1参照）。また、データ連携のためのEDIや、SSOも準備されており、

SAPなどの基幹システムとの連携も可能となっている。企業がクラウド化を検討する上ではワークフローを幹として様々な業務アプリケーション連携を想定し構成することが有効な切り口の一つとなるが、実績豊富なワークフローエンジンを備え

たintra-martをベースとした基盤を活用し、必要に応じて他の業務アプリとの連携や、基幹システムと連携をすることで効率的かつ効果的なクラウド化を実現できる。「BizXaaS PaaSは、様々なシステムとの柔軟な連携が可能で。例えば、データ連携の仕組みが強力なため、オンプレミスや他のクラウドと連携し、ハイブリッ



(株)NTTデータ  
ビジネスソリューション事業本部  
プラットフォーム&サービス  
ビジネスユニット  
クラウドサービス統括部長  
中井 章文氏



(株)NTTデータ  
ビジネスソリューション事業本部  
プラットフォーム&サービス  
ビジネスユニット  
クラウドサービス統括部  
クラウドソリューション担当  
課長 黒木 哲也氏

ドで利用することもできます。」(ビジネスソリューション事業本部 プラットフォーム&サービスビジネスユニット クラウドサービス統括部 クラウドソリューション担当 黒木哲也課長)

## BizXaaS PaaSが提供する「柔軟性」

アプリケーションの多くは企業固有

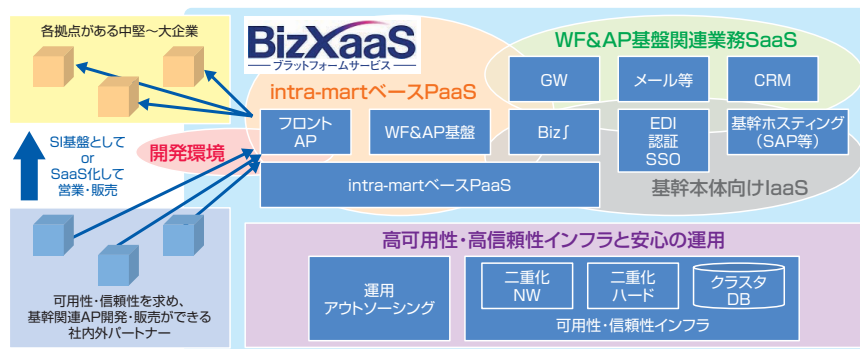


図1 BizXaaS PaaSの概要

に最適化されており、それ自体が競争の源泉であることが多い。一般的にパッケージアプリケーションをそのまま利用することの弊害として、ソフトウェアの機能に業務を合わせることで、企業が培ってきた業務の流れが損なわれることがある。一方で、業務の流れは競争の源泉である以上、市場の変化などに合わせて柔軟に変更し、常に改善していく必要もある。そのようなソフトウェアカスタマイズの「柔軟性」へのニーズに対して、NTTデータでは、「SaaS事業者やSIerとの連携を強化し、『出来合いのものを使って早く安く開発したいが、ある程度のカスタマイズも行いたい』という中堅企業市場のSIニーズに応えていきたいと考えております」（ビジネスソリューション事業本部 プラットフォーム&サービスビジネスユニット クラウドサービス統括部長 中井章文氏）としている。

また、このような個別カスタマイズに加えて、アプリケーションを新たに簡単かつ迅速に開発・運用するための仕組みも備えている。「ソリューション群の中でも、バックオフィスアプリの開発・運用を支援するintra-martベースを主にしたPaaSの部分には、グループウェアから基幹フロント業務まで、バックオフィスアプリを開発・運用するための部品が揃っています。通常であれば、ハードウェアを調達し、方式設計し、チューニングする必要がありますが、BizXaaS PaaSでは、チューニングまで完了している部品を利用できるため、早く、安く構築できることに加

え、運用のためのバックアップ、監視などの機能も揃っています。」（中井統括部長）

## 開発から商用まで全ての環境をワンストップで提供

BizXaaS PaaSでは、SaaS型アプリケーションのカスタマイズを迅速に行うための開発環境もNTTデータ 技術開発本部と連携してクラウドで提供している。

本サービスでは、開発支援ツール、開発モジュール、データベースなど、開発に必要なツールや機能をワンストップで提供している（図2参照）。従来であれば、開発用の端末を購入し、セットアップを行い、開発ツール等を用意する必要があるが、このサービスを利用すれば、特に何も用意しなくても、すぐに開発を開始することができる。このため、開発期間の大幅な短縮が図れる。

「開発者は、いつも使用している端末を使用し、仮想デスクトップ上で開発できます。結合試験については、Webアプリケーションサーバと開発用のデータベースを接続して試験を



（株）NTTデータ  
ビジネスソリューション事業本部  
プラットフォーム&サービス  
ビジネスユニット  
クラウドサービス統括部  
クラウドソリューション担当  
課長 溝渕 敬司氏

行います。そして、試験が終了したものを本番環境にデプロイするという流れです。このように、開発から結合試験、本番運用まで、ライフサイクル全体をクラウド上で完結させることが可能です。」（ビジネスソリューション事業本部 プラットフォーム&サービスビジネスユニット クラウドサービス統括部 クラウドソリューション担当 溝渕敬司課長）

開発環境をクラウドで提供することにより、TCOの最適化も実現する。この点に関して溝渕課長は、「開発環境は、常時必要というわけではありません。本サービスでは、必要な時に必要なリソースを必要なだけ利用できま

す。例えば、1ヶ月単位で、端末の台数を増減することも可能です。特に、減らすことができるのは大きな特長です。また、CPUやメモリの増減も可能です。開発者にとって、このメリットは大きいですが、TCOの最適化につながります」と語る。

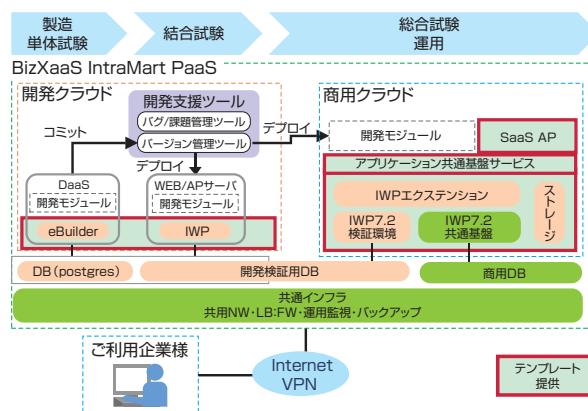


図2 開発環境のクラウド提供

利用者の声

# 様々なシーンで活用される BizXaaS PaaS

BizXaaS PaaSは様々なシーンで活用されている。本稿では、代表的な導入事例として、H.I.S.におけるワークフロー開発、Biz JにおけるERP開発、スマセイ情報システムにおけるワークフローSaaSについて紹介する。

H.I.S.

## GUIで容易にワークフローを開発

国内272店舗、海外87都市に拠点を構える旅行会社「株式会社エイチ・アイ・エス（以下、H.I.S.）」では、ワークフロー開発を検討しており、NTTデータを含めた数社のサービスを比較検討している。H.I.S.が考慮している点は、①外出先からアクセスできる、②スマートフォン対応、③グローバル対応、④最初は小さく始める、といった点である。

NTTデータでは、BizXaaS PaaSで提供する「VisualDesigner」を使ったクラウドでのワークフロー開発

を提案している（図1参照）。Visual Designerは、業務アプリケーションを簡単に作成するツールである。ExcelやWordを取り込んでWebフォーム画面を容易に作成し、複雑なデータベースの設計など無しにノンプログラミングで申請画面の作成ができる。また、intra-martワークフローと連携し、ワークフロー画面を素早く作成できる。H.I.S.本社情報システム本部 情報システム開発本部 人事会計システムチーム 松本俊一郎チームリーダーは、このサービスを利用して感想として、「ワークフローの定義や、社内の申請書類フォーマットの作成をGUIで簡単に行うこ

とができ、操作性が非常に優れていると感じました」と語る。また、ワークフローには、稟議書を提出する前にメールで通知しておく「根回しメール機能」もある。こうした日本の商習慣に適した機能も高い評価を受けたという。また、同チームの大島宏之氏は、「NTTデータ様は、サービスの立ち上げ時のサポートが充実していました。従来からクラウド導入の相談をしていたコンサルティング担当の方だけでなく、開発担当の方にも来ていただき、丁寧な説明を受けることができました。このため、安心して利用を開始することができました」と語っている。

Biz J

## BizXaaS PaaSを活用したERP開発

Biz J（ビズインテグラル）は、SOAとBPMを基盤としたクラウド対応のERPソリューションである。業務プロセスの可視化と業務改善、企業グループ間のシステム統合など、あらゆる企業の変革を迅速かつ確実に実現する。

アプリケーションの動作基盤には、intra-martのWebプラットフォームを利用しているため、BizXaaS PaaSと親和性が非常に高

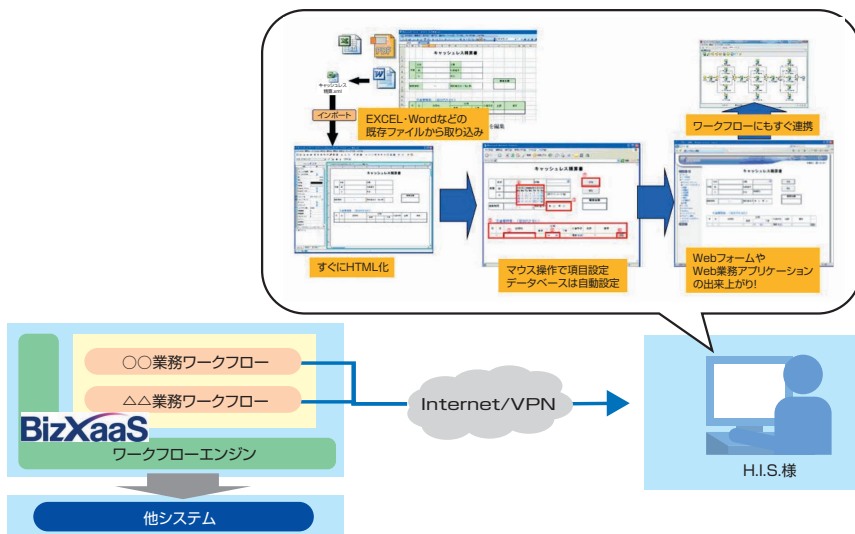


図1 H.I.S.におけるワークフロー開発





(株)NTTデータ  
法人コンサルティング&  
マーケティング本部  
Biz J 事業統括部  
課長 安部 裕之氏



スミセイ情報システム(株)  
東日本ソリューション本部  
東日本ソリューション部  
クラウドビジネス推進担当  
清水 大輔氏

皆伝! LE Works on BizXaaS プラットフォームサービス

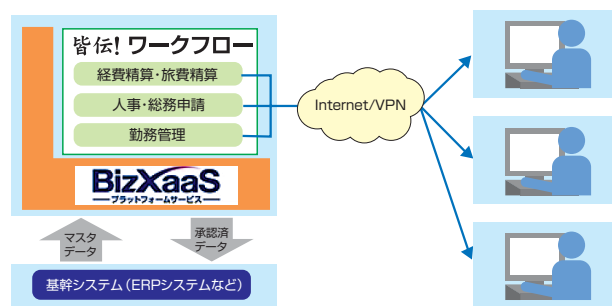


図2 皆伝!ワークフローのクラウド提供

い。また、ジョブやバッチの制御、システムの監視など、情報システム全体の運用基盤に関しても、BizXaaS PaaSのサービスを利用できる。「Biz J」は、BizXaaS PaaSとの親和性が高いため、高品質な基幹業務システムを短期間で提供することが可能です。また、前章で紹介したように、BizXaaSには、開発環境のクラウドサービスもあります。Biz Jをパッケージのまま提供することは稀であり、カスタマイズが伴うことが多いですが、開発環境から本番運用まで、一貫してBizXaaS PaaS上で行えることも強みです。そうすることで、プロジェクト全体のTCO削減にもつながります。」(法人コンサルティング&マーケティング本部 Biz J 事業統括部 安部 裕之課長)

アプリケーションに関しては、人事・会計などバックオフィス業務に注力している。今後は、NTTデータグループのバックオフィス業務を集約する「グループ・シェアードサービスセンター」への提案も視野に入れ、提供の拡大に向け取り組んでいく。

### スミセイ情報システム クラウド型ワークフローサービスの開発、販売・提供

スミセイ情報システム株式会社(以下、スミセイ情報システム)が提供する「皆伝!ワークフロー」は、従業員が利用する会計・人事領域の主要なフロント業務テンプレートを持つ、操作性に優れたワークフローソリューションである。また、基幹システムとの連携実績も豊富であり、幅広い業界で導入されている。

これまで皆伝!ワークフローは、オンプレミス型で提供されてきたが、近年、急速にクラウド型での提供を求める顧客ニーズが高まってきた。そこで、スミセイ情報システムでは、クラウド型ワークフローサービス開発に着手し、NTTデータのBizXaaS PaaSを活用した「皆伝! LE Works on BizXaaS」を開発した(図2参照)。BizXaaS PaaSを採用した理由として、スミセイ情報システム東日本ソリューション本部クラウドビジネス推進担当の清水大輔氏は、「『皆伝!ワークフロー』のターゲット層は、セキュリティポリ

シーが高いお客様も多く強固なセキュリティや監視体制が求められ、こうした要件を満たすBizXaaS PaaSの採用を決定しました」と語る。

「約2週間に1度、技術課題やパートナースキームなどに関して、密度の濃い打ち合わせを行いました。NTTデータ様にはクラウドサービスを提供する上でのノウハウを教えてください、当社の不安点がタイムリーに解消されました。開発開始から僅か4ヶ月で販売・提供開始できたのは、NTTデータ様のきめ細かいバックアップのおかげだと感謝しております。」(清水氏)

皆伝! LE Works on BizXaaSは、2010年9月から提供されているが、その間サービスが停止したことはない。安定運用という面でも高く評価されている。また、BizXaaS PaaSを活用したワークフロー製品としての問い合わせが想定以上に多いという。本サービス開始後も、NTTデータでは、営業支援や資料提供などを行うなど、充実したサポートを提供しており、スミセイ情報システムでは、NTTデータと連携しながら、導入拡大を目指していく構えだ。